

【1】 基礎調査

1. 社会経済条件

渡嘉敷村、座間味村は、沖縄本島的那覇市の西方約30kmに位置し、渡嘉敷島（渡嘉敷村）、座間味島、阿嘉島（座間味村）を主とする20あまりの島々から構成されている。主な交通手段は海路は那覇市の泊港よりフェリーが運行しており、渡嘉敷港までの所用時間は60分、座間味港までは90分である。また、座間味島-阿嘉島間もフェリーが運行しており、所要時間は10分である。また、空路は那覇から慶良間空港間で運行されており、所要時間は15分である。

平成元年5月1日現在の人口は、渡嘉敷村が904人、座間味村が829人である。表-1に沖縄県全体及び渡嘉敷、座間味両村の産業別就業者数の内訳を示す。これからみると、沖縄県の経済構造は第3次産業が特化しているが、渡嘉敷村、座間味村の産業構成も同様である。しかしながら、就業者人口対比で水産業就業人口の割合をみると、沖縄県全体で0.9%程度であるのに対し、渡嘉敷村では5.9%、座間味村では5.4%となっており、水産業の占める割合は比較的高い。

表-1 産業別就業者数

	沖縄県全体	渡嘉敷村	座間味村	
総数	478,244	445	331	
農業	49,447	55	37	一次産業
林業	175	11		
漁業	4,417	26	18	
鉱業	466			二次産業
建設業	66,787	74	37	
製造業	32,554	7	1	
電気・ガス・水道業	3,199	7	1	三次産業
運輸・通信業	30,103	24	32	
卸・小売業、飲食店	120,564	45	24	
金融・保険業	12,146			
不動産業	4,117			
サービス業	121,119	160	131	
公務	31,038	36	47	
分類不能の産業	2,112		3	

2. 自然条件

●気温・水温

沖縄本島南部的那覇における年平均気温（平年）は22.4℃、月別平均気温は1月に最低の16.0℃となり、最も高くなるのが7月の28.1℃である。また、那覇港入口における昭和63年の平均水温は24.9℃である。

表-2 月別平均気温（那覇 平年）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温（℃）	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1

表-2 月別平均気温 (那覇 平年)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温 (°C)	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1

表-3 月別平均水温 (那覇 昭和63年)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水温 (°C)	22.4	22.2	22.2	22.8	24.1	26.6	28.9	28.9	28.5	26.3	23.9	21.7

●潮流

渡嘉敷、座間味島周辺の潮流については、第11管区海上保安本部が調査した慶良間海峡付近海潮流観測報告¹⁾があるが、これによるとこの海峡付近には小さな島々が点在し、複雑な流況を呈するが、おおむね高潮時には北流になり、低潮時には南流となることが報告されている。また、同海域の最強流速図を図-1に示したが、これによると、1.5kt以上流れる海域、いわゆる水道がいたるところに存在することも報告されている。

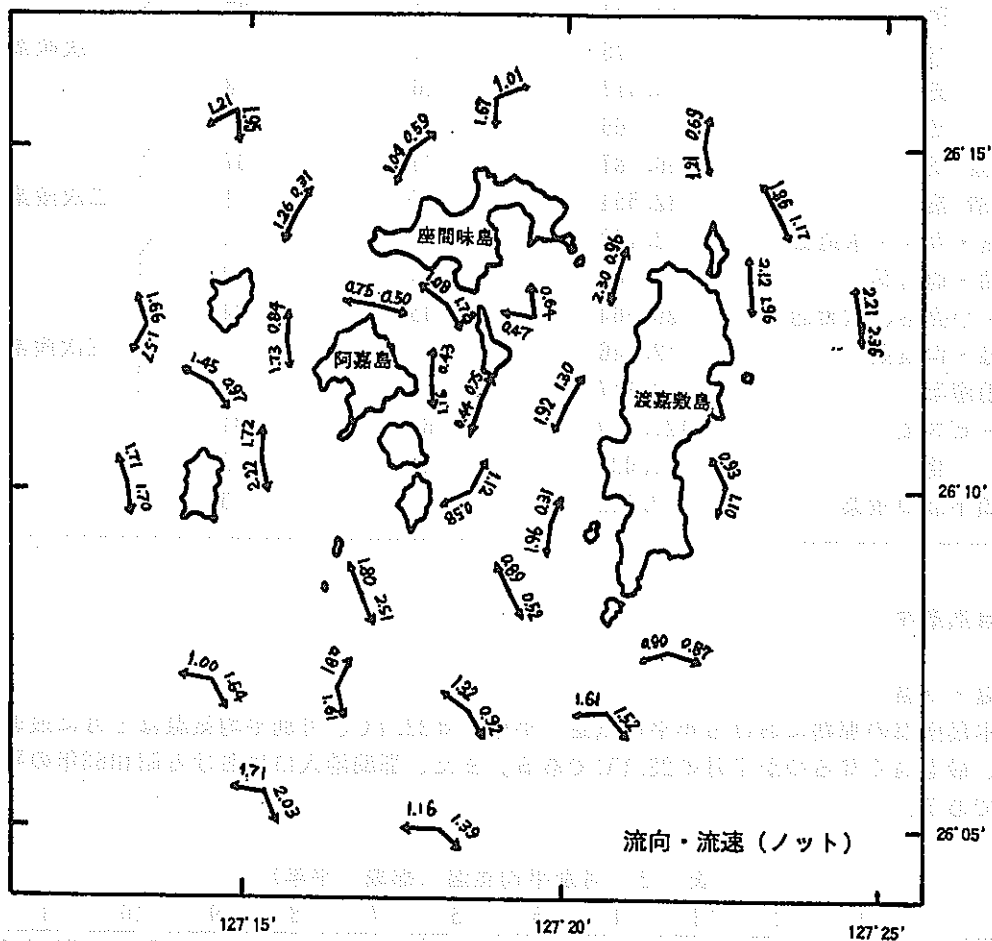


図-1 慶良間列島周辺の最強流図